

会 議 録

会議の名称	平成26年度 第1回豊中市図書館協議会		
開催日時	平成26年(2014年)7月3日(木)18時30分～20時30分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	可・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	3人
公開しなかった理由			
出席者	委員	松田 美和子 杉浦 公男 鶴川 まき 橘高 美那子 舟岡 直子 日下部 雅彦 森山 みさと 岸本 岳文 渥美 公秀 村上 泰子	
	事務局	足立教育次長 堀野岡町図書館長 北風千里図書館長 松井野畑図書館長 須藤庄内図書館長 大原岡町図書館主幹 島津岡町図書館副主幹 西口岡町図書館副館長 永島岡町図書館主査	
	その他		
議題	1 豊中市立図書館中長期計画(豊中市立図書館グランドデザイン)の進行スケジュールについて 2 その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

日時：平成26年（2014年）7月3日（木）18時半～20時半

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員 松田 杉浦 鶴川 橘高 舟岡 日下部 森山 岸本(委員長) 渥美 村上
事務局 足立 堀野 北風 須藤 松井 島津 大原 西口 永島

開会

資料確認

委員交代の紹介

委員・事務局の紹介

●委員長

次第に沿って議事を進めたい。議事に入る前に図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。図書館協議会の運営方法について、豊中市では原則的に会議を公開しており、本日も3名の方が傍聴に来ておられる。傍聴については10人の定員としているが、希望者が定員を超えた場合の傍聴者の数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいか。なお、本日傍聴の方にはアンケートをお願いしており、傍聴をされてのご意見をお伺いし、特に皆様にもお伝えすべき内容についてはまたご報告させていただく。

次に前回の会議録については事前に送付させていただいたものから、特に委員の皆さんからご意見はなかったもので、この形でまとめさせていただいた。公開の際にはお手元の記録と同じように概要という形で、発言者については、個人名を掲載せず委員とのみ表記することをご了承いただきたい。

それでは議題に入らせていただく。

議題1は豊中市立図書館の中長期計画「豊中市立図書館グランドデザイン」の進行スケジュールについて、まずは事務局から、豊中市立図書館の中長期計画グランドデザインの趣旨についての報告、その後、議題の進行スケジュールについて説明をお願いします。

●事務局

豊中市立図書館はこれまで積み重ねてきた資産である豊富な資料と職員、そして、利用者の存在があって赤ちゃんから高齢者まで市民の誰もが気軽に利用できる、きめ細やかな市民サービスを展開してきた。そのような図書館運営を評価するために、図書館協議会の評価部会や外部評価を取り入れ、協議会のお力をお借りして図書館の評価システムを作り上げ、近年の業務の中に還元してきた。そして今年3月システムの更新などによる業務の省略化と経費の縮減を図りつつ、市民に必要なサービスを見極め今後の図書館の目指すべき姿を実現するという形で策定したのが、豊中市立図書館の中長期計画グランドデザインである。お手元の当日配布資料④、今年3月に公表されました特定事業見直しの進捗状況と調整しながらグランドデザインの進行管理を図っていききたい。

本日の協議会ではグランドデザインの進行管理の在り方の叩き台について答申という形ではなくご意見をいただけたらと考えている。今年度の協議会については本日をいれて3回を予定しておりますのでよろしくお

願います。それではグランドデザインの進行管理につきまして、担当の方から説明させていただく。

●事務局

まずは当日の資料①グランドデザインの12ページから掲載されている28のプランについてご覧いただきたい。これらの28のプランについては年度ごとの進捗状況を把握し、効率的・効果的な図書館サービスを進めていく。そしてこれらのプランの達成状況をふまえたうえで、同じく資料①の10ページにある、グランドデザインの4つの目標についても年度ごとの振り返りを実施することとする。

具体的に資料を使って説明をさせていただくと、まず資料③は「グランドデザインの28のプラン 進捗状況(案)」となっている。こちらについては、項目・達成状況などを記入した現状と課題。そして、設定可能なものについては達成予定年度などを記入した今後の予定。それから優先的に取り組むかどうかの優先順位やあるいは年度ごとの目標達成を示す一覧表となっている。

これらの結果を踏まえて4つの目標の進捗状況を表すものがお手元の資料②「グランドデザインの4つの目標・進捗状況(案)」である。こちらには28のプランから優先順位の高い項目などを中心に現状と課題をまとめて記入し、可能なものについては具体的な達成年度を今後の予定の欄に、そして28のプランの中から4つの目標に関連する取り組みを「28の取り組み」項目欄の中に記入する形としている。また28のプランの中には4つの目標に対応させにくい全ての業務の前提となる項目(=目標実現を支えるもの)もあるので、そちらの方は4つの目標とは別に1番下にまとめることとした。

このフォーマットを活用し、年度ごとにグランドデザインの進捗状況を量り、目標の達成に繋げていきたい。今後の作業の工程としては職員間で取り組みの優先順位や達成年度などを検討共有したうえで、これらのフォーマットについて資料を作成し、豊中市の図書館活動の冊子の中に合わせて掲載し市民の皆様に公表を考えている。

今回の協議会においては、28のプラン及び4つの目標をこのよう形式で進捗状況にまとめ、「豊中市の図書館活動」の冊子の中で合わせて公開していくという点についてご意見をいただきたい。資料②③にあるような個々の文章については表のイメージをしていただくために仮に記入したもので、こちらの文章・内容そのままではなく表組などフォーマットについて委員の皆様からのご意見をいただけるようお願いする。

●委員長

ただいま説明された内容で、大体イメージとしてお解りしていただけたでしょうか？少し確認しておきたいところ等ご質問・ご意見いただきたい。

発言の際には手を挙げていただいて、私の方から指名させていただいたのち、マイクを使って発言をお願いします。では、どうぞ。

これまでの図書館のいろんな評価システムから、かなり大きく変わっていくという事でよろしいか。

今平成24年度の「豊中市立図書館評価」資料を配っていただいたが、まとめ終わったのはいつ頃か？

●事務局

「豊中市立図書館評価」に関連するものは、先にお配りしている「豊中市の図書館活動」を編集発行後に作業を開始する。「豊中市の図書館活動」の完成が昨年秋で、「図書館評価表」は最近になってようやく出来上がった。

●委員長

非常に丁寧な資料で、きちんと読み込むとすごくわかるが、やっぱりかなり時間がかかってしまうというところで、実際にこれを使っていろんな議論をしようかというときには、少しタイミング的に厳しいかと思われる。そういった意味では新しい進捗状況の管理というのが、もう少し具体的に図書館の様々な活動報告を含めもう少し早い時期に出すことで、市民の方とも議論できるような内容になるのではないかと。

ボリュームがあるのでご意見も出にくければご質問でもどうぞ。

この「豊中市の図書館活動」は、印刷されてかなりの配布はされているのか？

●事務局

発行が次の年度のどうしても9月、秋ぐらいになってしまう。今から平成25年度分の図書館活動の報告書を作る。後程お話をしようと思っているのだが、評価についてどうしていくか、グランドデザインの方向性をどうするかが決まったら、図書館活動の報告の中に組み込んで作成していきたいと考えている。

この図書館活動の報告は出来上がった時点で、議会をはじめ府内の主だった図書館にはお配りし、豊中の図書館に見学来られた方、協議会の皆様、図書館の関係団体の方、文庫の方をはじめ色々な団体の方にお渡ししている。

●委員長

これは結構なボリュームになるが、抜粋版みたいなのはあるのか。

●事務局

毎年作成する統計編も分厚いもので数字だけが羅列している感じで、わかりにくいとご指摘もあり、概要版がつかれないかとの声もお聞きしている。しかし、この他に評価についても自己点検・自己評価ということで、毎年報告書を作成していたので、それ以上の作業は無理で、今までに（概要版を）作ったことはございません。

●委員

今回、グランドデザインの28のプランの進捗状況を豊中市の図書館活動の中に組み込んで行くということで、その二つの関係だが、(資料①の)グランドデザインの中で大体7ページぐらいまでの所は平成24年度のこれを作った時点での豊中市立図書館の評価で、それがおそらく豊中の図書館活動で毎年やって公表している部分だ。このような対応関係だとすると、その評価の時点での将来像としてさしあたって、目標とするのが8ページ以降の部分であり、その部分を進捗管理していくことになるだろう。

その場合にその図書館活動の中にそれをどう組み入れるのかということだが、まずは組み入れるのにあまり手間がかからないようにしていくことが大事と思われるので、先ほどの表がこれからの議論の中でどういう風な変更が加えられるかわからないが、それを挿入するのが一番わかりやすいだろう。ただし、挿入するに当たっては挿入する前の段階の図書館活動の部分と、それから挿入されるグランドデザインの部分との関係が明らかにわかるようにしていただきたい。おそらく、今の図書館活動の中身もグランドデザインを実行していくにつれて、変更していく部分はあるだろうが、この中にはグランドデザインとは少し離れた部分というのも当然のことながら含まれているので、その両者の組み合わせ、ここに挿入していく上でのつなぎ目というのが何らかの形で明確になるような文章や図など、そういったものを挿入していただければと思う。

それと、先ほどの抜粋版の話だが、確かにこれは大部で市民の方々がご覧になってもなかなか、というこ

ともあると思われる。もし簡単に、やるとするならば数値で見る豊中市の姿のところと、その年度のトピックスという部分が1～2ページにあるが、この部分だけでも小冊子やリーフレットという形で出すのが一つの方法ではないだろうか。

●委員長

ありがとうございます。ほかにご意見はございませんか？

●委員

たくさん資料があるし、事前に配られていたものより今日配られるものが多いので、頭の中が整理されていないが、今おっしゃられたように豊中市の図書館活動を誰が見ても豊中の図書館がどのように運営され市民のためのサービスがあるかというのが、本当にわかりやすくなり、今でも、これまでかなり関心を持った市民の人たちでいろんな意見を出してきて、以前よりはるかにわかりやすくなったと思うが、さらにやっぱり噛み砕いて今、評価システムと一緒に入れるとなると、その辺どう入れるか相当工夫して、市民にわかるような形できちんと考えてやっていただきたい。

また、それに関しては市民団体でも検討しながら意見を申し上げていきたいと思う。

●委員長

グランドデザインとは、今後10年間、豊中の図書館の方向性をまとめたものであり、それがどういう風に進んでいくかというのを管理していく形になるが、それは基本的にこれまでの豊中の図書館の歩みの上に成り立っているものであること、そして10年間の中での様々な成果がこれまでの実績とどのように繋がっているのかをきちんとこの進捗管理の中でも出しておくべきだし、まったく切り離れたものではないということである。

今までやってこられた様々な評価が、あってこその中で、この28のプランがどのようにさらに展開していくのか、今からスタートするのではなく、今までの様々な積み重ねの上にこれがあるということが、そういった中できちんと位置づけられてわかるようにしておかないと、今までやってきた評価というのがかけ離れたものになってしまうのではないかというご意見。

そのあたりは少しまとめる中で工夫っていうのを考えていただきたいし、これまでの評価という形でやってこられた部分はこれからも継続して、確認はしておかなきゃいけないだろう。

ほかにご意見はございますか？

●委員

資料③に載っているように優先順位の欄があるが、本当にたくさんのボリュームがある。それについて一つ一つ優先順位をつけていくということだが、優先順位を見誤ったら大変になるが、どのような観点で決めて、最終的に決めていったらいいのか？それをちょっと聞かせていただきたい。

●事務局

こちらにつきましても、まずこういうフォーマットで今回お示しさせていただいて、中身の記入については、一部事務局でどのぐらい出来るかというのを呼びかけた段階です。今、図書館の職員や資料費や予算に関しても限られた中でどういう風にどこから進めていくのかは、年度々々によって少しずつ変わっていく部分がある

と思われる。まずは図書館を取り巻く環境や市民の図書館に持たれている要望やニーズを把握し職員間でグランドデザインに関わる取り組みを進めていくことを共有する。そのうえで先に何をやっていくべきなのかを考える。どれも重要な取り組みでこれをやらない話にはならないと思うが、28のプランのどこからまず手をつけるのか？今の状況の中でどこから始めるのかということ職員間で共有して、優先順位を付けて取り組み、まず年度々々でどこまで進んだのか？それから次年度に対してその優先順位が去年と同じでいいのか？ということも繰り返し検討していきながら進めていく形と考えている。

●委員長

資料①のグランドデザインの11ページにピラミッドの図があり、一番上に豊中市立図書館の使命・理念というのがある。これはずっと変わらずに進められていくのだろう。それをもう少し具体的な形で基本目標という、これもこれからずっと掲げていってもらおう。当面そういった使命・理念を達成していくためにこの10年間で特に力を入れる。その方向性というのが下にあるグランドデザインと4つの目標という風に理解してもいいと思うが、豊中の図書館の持っている本来の役割や、やらなきゃいけないことは、当然これまでも続けてこられたこと、それをこの10年間特に焦点を絞るっていう所が、このグランドデザインの4つの目標ってところにあるのだろう。その4つの目標というのが考えられていて、その4つの目標がどこまで進んでいくのかということきちんと確認していくために、具体的な個々の仕事の項目として28のプランがあるのだろう。いくつかの具体的な仕事を通して、この4つの目標がどこまで進んでいるのかというのが把握可能になってくるようなイメージがある。

資料②でいうとそういった意味では4つの目標の中の1. 学びによる市民と地域の自立というのが掲げられていて、この4つの目標の中の1番目の目標というのを具体的に実現していくために、グランドデザインの28のプランの中から特にここでは具体的な項目として23. 24. 25. 26. 27が該当するだろうというような形で捉えていいわけですね。そして、この23. ~27. のそれぞれのプランがどのように展開したかということによって、1番目の4つの目標の一つがどの程度1年間で進んだかということ進行管理していこうというのが今回の提案だろう。で、この中では当然年度を区切って目標を達成するということもあるとすれば、それは、その年度において優先される課題というような形で、この優先課題というのが決められていくということ。決して図書館にとって何が一番大切なのかっていうような形での優先という事ではなくて、当面この10年間でこれを実現させていくためにまず図書館が取り組まなければいけない課題がどこなのかということ決められたとすると、毎年この優先順位が進行管理をしていく中で変わっていくだろうというような形での優先度というような理解でよろしいか？

●委員

なかなか今日は資料が多いので見るだけで大変だ。

●委員

この4つの目標の「1. 学びによる市民と地域の自立を支えます」について、現状と課題があり、今後の予定が28の取り組みは何番かということになる。これの進捗状況というのは、たとえば28の取り組みの23. 24. 25. 26. 27. であり、さらにこれを具体的にこういうことからするという、实例を示していくべきだろう。「(25の) 豊かな市民力を育む生涯学習の情報基盤としての公共図書館の役割を果たし…」も、結構理念的で全然具体的ではない。これはどういう風に評価するのだろうか。たとえば目標「3. 地域課題に対応した図書館サービスを提供します」が、このような形で書かれるとしたら、28の取り組みの何番に対応する

かといえば「(7の) 地域課題に基づいた館ごとの目標を設定します」とかになるのだろうが、やっぱりこれも理念的でもっと具体的に表して「こういうことから取り組みます」というものがないと、これは評価が大変ではないか。

一つこの場で言うのが相応しいかどうかかわからないが、今度マチカネワニ（化石）が国の登録記念物になったので、それをタイムリーに図書館で展示などをしたかどうか、その辺りの取り組みの遅さがすごく問題だと思う。マチカネワニの資料がまとまってない。そういうことこそ豊中の地域の地域課題だろう。他にも広報とよなかを図書館に探しにきたら、積まれてあって探しにくかったので、別の努力をして、グラフ豊中という資料を探してきた。これは豊中の歴史に関心を持っている人にはとても貴重な資料なので、これが本当に市民に活用されれば図書館の資料の能力というのが活かされると思う。そういう蓄積の継続は大切。豊中の大阪音大のことや花のことなどそういうものも資料として提供できるように置いておく。たとえ図書館になくても、どこに行けばそれがあるかというインデックスは図書館がもっておかないと。課題4つの目標と言っても具体性が欠けるような28の取り組みはいくら書いても意味がない。そういう具体的なことをきちっと積み上げていただきたい基本の資料の蓄積と提供についてもっと努力していただきたい。

豊中の図書館の古文書はとても良く揃っているそうだが、かつて専門的な相談にのって答えた人が退職になられて、職員の対応はよいけれどそういう地域課題にきちっと対応できるような人材育成の面で難しいのではないだろうかと聞いている。関心を持っている市民を支援するだけではなくて、その市民の側に蓄積されたいろいろな知識をもっと有効に引き出すことを図書館の側が、どうやって市民の力を引き出すかというのをぜひ具体的に考えて、ここの評価表の中の優先順位をつけていただきたい。

●委員

今、お話を聞きながら見ていたが、28のこの中で行くと14ページに例えば「地域の課題と利用の動向をさらに細やかに分析し、地域に必要とされる資料を提供します」というのは、まさにおっしゃっていることの中身だと思われる。それから16ページ「地域との関係強化」ということ。25. 26. 27. も、おっしゃっているようなそうした形で市民の方々の力を図書館という場を使ってどう活かしていくかということになると思うし、まさに26の地域の情報を周知する。それが地域の方々や市民の方々が活用できる場を提供する。こうした具体的な項目としてあがっている。しかし、実際これどう評価するの？という部分がある。数値で評価するといったときに、今おっしゃっているような様々な事柄というのがなかなか数値には表れてこない。それで、図書館の仕事、ほかの仕事でも基本的に私は一番大事な仕事は数値には表れないだろうと思うが、そうした中で、そうした進行状況を管理しながら実際の仕事をどう測定していくとかいうところが非常に今回問われている課題と感じる。

●委員

まったく新参者なので、すこしの外れな意見かもしれないが、グランドデザインとはもともと10年間の中期計画なのにこのプランの中では短期のものも入っているし、中長期かけないと達成しないものもあるし、少し雑多な感じがする。いまさらこんなことを言ってもしょうがないかもしれないが、そういう感じがした。

ということは、短い時間で出来るものがあれば、まずそれから取り掛かればいいという気がする。また先ほどおっしゃったように評価というのは数値化するのは難しいという部分もあるかとは思いますがやはり、まずは数値というか、具体的な目標がないとあとで評価出来るわけがないし、観念的なものを目標にすればあとで困るばかりなので、もっと具体的なものにすべきだろう。たとえば、「ICタグを活用した提供をサービスします」では、何をどういうふうに行っているのかというのが私にはわからない。たとえばネットを使ってやりたいの

かどうかはわかりませんが、もう少し具体的なものにしないとちょっと困ったという気がする。2つのポイントは短期でやるものと中長期のものをもう少し整理したらいいじゃないのかということ、やはりもう少し具体性・具体的に何をどのくらいやりたいのか、もう少しブレイクダウンしないと難しいと私は感じた。

●委員長

おっしゃる通り10年間ということで全部10年たったら出来てればいい話ではなく、少なくとも10年間というタイムスパンの中でこれをどのように管理して進めていって実現していくかということが問われている。その中で、今おっしゃったように時限を切ったいくつかの項目がある。これはきちんと10年間の中にどこに落とししていくかというのを管理しておいた方がいいだろう。

もう一つは数値の目標。当然いろんなことを測定するには数値が必要だが、何のためにそれをやるのかという所がもう少しきちんと整理されていないと数値達成すればいいという話ではない。基本的には私はやはり図書館の点検管理かと思う。自分たちできちんと進行管理しながら現在の仕事の状況を点検して管理していく。それはおっしゃったように、きちんとしたタイムテーブルがあったうえでそれをやらないと、下手をすると問題先送りになりかねない。それぞれの段階でそれぞれがやるべきこと、やれてなかったことについて、きちんと点検して仕事を見直していく。そのことをやらないと決して数値で計って終わりではなくて、数値で計ることによって何をやるのかというのをきちんと押さえられていないとならない。

もう一つはやはりそうしたことを基にして外部の方々とどこまで具体的に図書館の状況について様々な議論ができるかということだろう。数値で表現するといったことを通して具体的に今図書館が置かれている状況をきちんと把握してそれを基にして外部の人たちと様々な議論をする時一つの方法というのか、ベースを作るというのがこうしたことで求められることだと思う。ここまで済んだからいいということではなくて、その状況について、じゃあどのように市民の方は把握されているのか、どのように評価されているのか、それを一つの共通の方法を通して議論するためのものを用意することだろう。先程、概要版といったのはそうしたことも踏まえていて、ずいぶん時間経って出来てしまって、なかなかそれをきちんと読んで把握してということが困難だと、せっかくこれだけ労力かけたものを基にして様々な人たちと図書館について客観的なデータを基にして議論することや、図書館外の人に図書館の仕事を説明して理解してもらおうといった事に繋がっていきにくい。多分この中長期計画というのはそうした形で市民の方々に今図書館が何を目標しているのかということをお示しして、それが今どのように動いているのかということ、時々においてきちんと市民の方々にも把握できるような形で図書館側から提示して、自分たちの仕事を点検管理することに市民の方々から、こうした具体的な図書館の仕事の在りようを通してご意見をいただくという事に使うという所に置いておかないと、多分このグランドデザインというのが自己目的化してしまいかねない。それは困ってしまう。今おっしゃったことはそういった意味では、それぞれの仕事についてももう少し具体的な落とし込みが必要かと思うし、おっしゃるようにICTで、じゃあ具体的にといったときにこの進捗状況の中の項目の中の今後の予定に、そうした事柄をもう少し具体的に盛り組んでいく、ICTの中でこれといった事を盛り込んでいく工夫が求められるかと思う。

●委員

ついでにもう一つ何事も問題解決的なアプローチがいいと思う。何が問題なのかがわからなくなり、大風呂敷を広げてすべて網羅するというやり方よりは今図書館にどういう問題があるということを出発点にすると何か改善点が見えてくると思う。企業の改善点はそういう所で、何が今そんなに問題なのか？というところから普通は議論が始まる。だから、そういうアプローチの仕方でもう少し取り入れたらいいのではないかと感じ

た。

●委員

今皆さんのお話を伺っていてこの資料3と関連づけて捉えるのであれば、現状の数値より課題というところをもう少し具体的に描くということ。それからそれに合わせて今後の予定のところも今①②③ごとになっているけども、その中で①の全体としては割と全体として長期であったとしてもそのうちのいくつかに関しては短期で取り組めるものもあるので、その辺も書き分けて優先順位も①②③というよりも具体的な個別の項目に対して、これは今年度の優先であるというような形の方がわかりやすいのではないかとすることがある。

●委員

いろいろお話をお聞きして思ったが、このプランの中でやはり評価とか進行状況が非常にわかりやすいのと、わかりにくいものがあると思う。たとえば18の「開館日数を拡張します」というのがあるが、職員の配置とかいろいろと問題はその後にあると思うが、開館日数がどれだけ増えたかということ、判定は進行状況で出来る。ただ、25になると、市民の生涯学習を助けることによって市民の社会参加や地域との関わりを支援していくということを言っているの、たとえば市民の生涯学習というと、自分の生涯学習ということになるが、それをするによって社会参加、地域とどのようにかかわってきたかという判定をしないといけなくなるので、これはやっぱり判定しづらいし、結局判定するとすれば図書館内部だけでは判定するわけにはいかない。

やはり、いろんな人と市民との議論の中で本当にこういうことがあったのか、どのくらい進行したのかそういうことを議論していかないと、結論はそう簡単に出せない。全体との議論の中で具体的にどのような進行があったのか、そしてその進行の程度はどういうことなのか、完全に終えたのか、それか中間程度なのかそういう議論が続かないと結論は出せないように思う。

●委員長

たぶん一旦出たものも、もう一度これを叩いていくというようなことをやらないと、難しいだろう。そういう意味ではお二人の委員からご指摘があったように、やはり、資料②の所で行くと現状と課題ですね、この28のプランというのは一つの切り口。この切り口から見て、今後10年間という中期的なスパンの中で豊中市立図書館を考えたときに、何が課題なのか問題点なのかということをもう少し具体的なものとして捉え、それを解決するために、今後の予定として、具体的な事柄を展開していく。それは当然時間軸をきちんと押さえたうえのことで、いつまでにといった実現のスケジュールを立ててそれについて毎年きちんと点検をしていく。場合によっては、現状と課題、その中期的な所で解決されればまた全く異なった課題に対応して今後の予定というのがこのグランドデザインの中で出てくるだろう。

●委員

今までずっといろいろ聞かせてもらって、思うことが大体4点ぐらいある。一つ目は、やっぱり一番議論が必要なのは優先順位と思う。これだけのものに優先順位をつけるというのは先ほどどういった基準でというのもあったが、一番難しいし正解は無いと思うのでとにかく決めていかなければならない。

二点目は今まで評価と言えはすぐ数と思うが、数はやりやすいものもあるが、数でやりにくいものはやっぱり質でやったらいいと思うので、何か具体例を入れるとか、議論の経過を入れるなどして評価や進捗状況が、いわゆるみんなが思っているものと違う姿になってもそれはいいのではないかとと思う。

それから3つ目はこういう目標をたてて28個もプランを持ってきてやっているが、市民の利用者の方から

見ればまったく的外れかもしれない。利用者の方からすればエアコンが効いてないとか、駐車場がとかそういう項目が出たときに、図書館の業務とかまさか言えないけれど、本とは関係ない部分が、この資料②の表の0に入るだろうが、やっぱりその他として扱うよりも市民の声みたいなものをちゃんと前面に出した方がいいのではないかと思う。

4つ目はなんか絵にならないかと上向いたり下向いたり考えていたが、目標が4つあってプランが28個あってそれぞれの重複があって何かまとめられそうな気がするが、この表をこのまま公開するのかもしれないが、市民の方もこういうのは「読まへんわ」と思うのではないか。なかなか思いつかないが、何か分かりやすいような表現で、趣旨を伝えられるように考えて欲しい。

●委員長

今おっしゃった分で言うと市民の視点から、こうした協議会等できちんとこれ皆さんで確認していただくということも必要ですし、クオリティをどう評価するかという部分で言えば、これはまさに協議会の委員の皆様で評価いただいてその事が結果として図書館評価の中に反映されるといった事でもいいのではないかと。そして、図書館が測定したということではなくて、そうした意味で外部の方々が図書館を見たうえでこれについて判断する、図書館協議会という形で一つオーソリティを持たせた形の質的な評価もありではないか。そして、今、おっしゃったように私もこの目標とプランを何とか、見やすくしたい。

この4つの目標とそれから28のプランは、最初の文章だけですとなかなか噛み合っていなかったもので、できればこれを繋げた形でその4つの目標用に集約していくような絵になればと思う。できればほんとに一枚の形でこれがまとめられないと、せっかく作っても意味がない。出来れば、少なくとも一枚のペーパーにこの結果がまとまるような工夫をぜひ考えてもらいたい。

図書館の一年間の結果と現在の問題点とこれから進むべき方向、やはり、本当に集約したものにして提示できなければなかなか理解を得て支持を得ることが難しいだろう、非常にシンプルな形でそういったものが最終的に提示出来て初めて様々な理解や支持を得やすくなっていく。そうした努力、PRの話がずっと前から出ていたが、そうした努力というのがPRに繋がっていくことになる。

●委員

市民の方にはわかりやすくというのはとても大事な視点だと思うが、今回のこのグランドデザインに対して、さらに通常の図書館評価システムで内部評価・外部評価よりも一層難しいだろうと思うのは、特に前半の15項目ぐらいがすべて運営に関わることであり、市民から見えにくい部分であること。その部分を改善することが、どうこの図書館のサービスの向上に寄与するのかというところを上手く伝えないとできない。その中で、こういうことをやっていってもそれはいくら言われてもわからないとなってしまう。

まだ後半の方はいいと思うが、特に前半の方をどう説得できるように伝えるのかというのが非常に伝えるのが難しいと感じた。

●委員

今の図書館は人件費も長い間いろいろ言われている、この時に、でも図書館ってすごく頑張っているというのを、やっぱり市民から支持されるような図書館活動を相当考えて戦略的にやっていくのが28のこのグランドデザインなのだと思うが、でも、さっきも言ったように本当にもっと具体的でない、いや、お金がないからとか、というような問題で片づけてしまったら、やっぱり市民に対して見せられるようなもの、ああ頑張っているなど見せられるようなもの、そういう資料を提示していく、それをわかりやすく市民に見せていくこと

をもっと大事にしないといけない。学校図書館は司書の方がそういうことをすごくタイムリーにやるので、話題になった時に図書館行ったらすごくよくわかる。公共図書館でも努力されていることはよく分かるし、この頃、フェイスブックとか、違ったことも出てきたのは評価するが、もう少し工夫あったらとてもいいと思う。もっと全体としてビジョンを描いて変えていくところは変えていくというその動きが速くないと、この 28 の仕事をいくら書いてあっても見えてこない気がして、その辺がちょっと残念。

●委員長

資料の⑦、これ文科省のサイトで（豊中市も含め）国内のいくつかの図書館の事業を集めて紹介している。これは幾つぐらい紹介していたのか？これはそんなにたくさん紹介してなかったか？

●事務局

後程まとめてご報告するつもりだったが、文科省のウェブサイトに現在掲載されている、「図書館実践事例集～人・まち・社会を育む情報拠点を目指して～」というところに、豊中市立図書館の取り組みがこのような形で紹介されているということでそのページだけを抜き出している。（掲載例は）結構数がある。ただ、この事例集というのは、日本国内の図書館がそれぞれ一層の知の充実、知の強化を目指して、自分のところに足りないところでアクションを起こそうというときの参考になるような事例を全国各地の図書館の特徴的な取り組みからピックアップしてまとめて紹介されているところであり、一応都道府県から推薦のあった取り組みというのがグルーピングされて載っている。連携と様々な利用者へのサービス、課題解決支援とか、街づくりとか、建築空間作りとか、電子図書館とか、その他というようなグルーピングがされていて、ちなみに豊中の分は連携というところのグループの中に含まれている。ただ、連携というところを開いても相当数、大阪府内、各都道府県別に掲載されている図書館を見るということも出来るようになっていて、大阪府では府立中央図書館と、大阪市立中央図書館と、豊中市立図書館が今回取り上げられている。

●委員長

冊子（資料 9，10）の中に紹介されているということも、そういった意味では様々な取り組み、概略的には評価されている部分も結構あるという気がする。

では4つの目標と 28 のプラン様々なご意見、ご指摘いただいたので、是非これを活かした形で再度全体をまとめていただくという作業をしたいと思う。

●委員

一つだけ聞きたいと思っていたことがある。4つの目標の中の一つ、学校図書館を支援という部分で、このことについて具体的にはどのように現状と課題を分析して今後につなげていこうという見通し、具体的にはどのように考えているのか、知りたい。学校によっても様々だと思うし、それをどういうふうに合わせて、市としてこんな感じに持っていこうと考えているのか聞いておきたい。

●委員長

（事務局で）今ちょっと説明できそうなところだけでも。

●事務局

グランドデザインに関するところで少しお伝えすると、先ほど委員の方もおっしゃっておられた 0. の全部

となる環境整備というのが図書館サービスの基本となるところなので、その辺りと、それから、学校図書館に関連する 13 ページの 11. の「学校図書館を支援する人材を配置します」。これは学校図書館に特化したところであり、その他人材育成に関して、また、それ以外のサービスの利便性の拡充等が対応する部分となる。さらに学校図書館との連携においてどんなサービスをしていけばよいのかというようなことを、いずれにしても整備してきた学校図書館という読書環境を効果的に利活用した取り組みの推進、そして生涯を通じた学びの基礎づくりに関して、こういう取り組みが出来ている、まだこの辺が出来ていないことについて効果確認を継続的に行っていきたい。

●委員

そのことに関してですが、学校図書館の職員の管轄課である読書振興課が本庁から岡町図書館内に移り、今学校図書館の読書活動システムが整った次の段階として、読書だけでなく学校教育の中で学校図書館がどう活かされるかという結構課題がはっきりしている。そこが本庁からこっちの方に移って、学校教育との連携の中で支障がないのか？そのあたりのことも質問として、答えていただきたい。

●事務局

6月1日に本庁第二庁舎から、岡町図書館に場所がかわったということで、学校図書館の主管である小中学校チームと教育センターで研修なども行う。BP（＝ブックプラネット）の推進連絡協議会というところで、私教育次長を座長に、教育課あるいは教育センターのチーム長あるいは地域教育の室長なども集まってどういう形でやっていくのかについて連携を密にしながら今もこれからも話し合い、さらに進めていきたいと考えている。また読書振興課の今年に関しては、昨年4月から本格的に学校図書管理システム及び事業活動データベース等のシステムが整ったので、今年度は学校の校内研修で学校図書管理システム、事業活動データベースの周知、PRとして校内研修を通じて全教職員に進めていくということで、前年度よりすでに10校行っておりまずは営業活動を、今年度の取り組みとしては考えており、学校教育の中ではBPの推進連絡協議会の中で連携を密にしながら、これからも出来ることと考えている。

●事務局

話が行ったり来たりで申し訳ないが、先ほどの文科省の事例の件数ですが、連携のところに豊中の事例が載っていると申し上げましたが、連携というところの総数について、一番ジャンルの中では数も多いところで34事例が掲載されている。各47の都道府県それぞれ1つから3つの事例がピックアップされているという形で、トータルで7つのジャンルを合わせて百ちょっとの事例が集められている。よろしかったらまた覗いていただくとありがたい。

●委員長

グランドデザインの部分に関して、ほかにご意見等はございますか？

●委員

今年の広報の2月号に図書館における自動貸出機の導入で予定台数21台×300万、リースなら6万円などと書かれてあり、千里図書館での導入予定のe-棚（予約図書自動受け取りシステム）に触れてあったが、ITの活用というのが人件費削減というものにもなるし、市民サービスに向けた人員配置なると、この2点で自動貸し出し機の導入とe-棚というのが広報に書いてあり、e-棚というのがちょっとわかりにくいですが、千里は

来館者がすごく多いということだが？

e-棚というのはそれだけ沢山の人が行って、自分が予約しているのを的確に市民が、図書館の人の手をわずらわせずに、ちゃんと受け取れるのか？また図書館の人がまったく介在しないシステムというのは本当に図書館というのにいいシステムなのか？も含めてちょっとその辺よく分からないので、広報に関して記載があったことを説明していただきたい。

●事務局

その2月号について、議会の答弁の関係だったと記憶しているが、その当時予算の時期だったので一応教育委員会の見解でそういう答弁をさせてもらったが、教育委員会では財政等で投げかけているというところで、まだ、具体的にどうするかという部分は、まだ決まってはいない、その時期の教育委員会ではこのような考えであったということで申し上げた。

●事務局

おっしゃるように、すべて自動貸出機とe-棚で事足りるとは思っていない。おそらく銀行のATMと似たようなところがあるだろうが、一定機器の操作に慣れた方やお時間がそれでカットできる方はこちらをお使いいただき、e-棚等をちゃんと説明できていないので申し訳ないが、図書館は本の貸し借りをするだけのところではないので、当然司書が存在してご質問にお答えする、あるいは何を探しておられるのかとサポートするということは、人の力、あるいは司書の力でやらないといけないと考えているので、すべてを自動貸出機とe-棚でやるというふうには考えておりません。

●事務局

基本的に今までバーコード管理の図書館システムであったが、今年の3月から蔵書にICタグを貼付しているので、非接触型と言いますか、リーダライタという装置の上に置くと冊数がすぐ出る。たとえば8冊置いたら8と出るので、キー操作で貸出処理をすれば8回バーコードをなぞらずに処理できるという、システムで3月から稼働している。それをもって、たとえばスーパーのレジやATMもそうだが、セルフレジというのがスーパーにあると思うが、それと同様にご自身で操作出来るという自動貸し出し機の導入も前提にあるわけで、そこに置くことによって、ちゃんと貸出し処理をしたということになる。ICがいわゆる貸し出しましたと情報を持っているので、ゲートを通っても無断持ち出しではないと示すので、館外に持ち出せる仕組みとなっている。プライバシーの関係等もあるので、本を借りるといえるときに、自分が何を借りているのかということ職員にも知られたくないと思う市民の方もいらっしゃるのでは、そういう方も選ばれるのではないかと、そういうことにも、自動貸し出し機で処理をすることによって対応できるだろう。簡単に説明すると一定のスペースを区切ってe-棚を設置し、カードを持った利用者が入ってカードを提示することでどこの棚にあるということが、LEDなどによって表示されるのでそこから利用者自身で抜いて貸出し処理をしてお帰りになるというもの。基本的にそういう方は職員の手を介さずに借りられるということも可能である。

●委員

今のお話を聞いて思い出したが、80年代の初めですが、図書館に初めてコンピュータが入って今のOPAC(=館内の利用者用パソコン)検索機ができて、新しくできた図書館がコンピュータ入れて、OPACだけで開館した。そしたら、これ(=OPAC)で本を検索してくださいと図書館職員が言ったら、非常に不愉快だと、訴えに来られた。基本的に選択肢はきちんと確保しとかないといけない、もうこうなったからこっちはな

いよという話ではないだろう。それぞれの利用者の求める形で用意しておく、多分人件費削減というのがあるだろうが、私はやはりカウンターに座って利用者が来られるのを待つのではなく、出来るだけそうした形でカウンターの手間が省ければ、職員がカウンターの外に出ていくべきだろう。図書館で仕事しているとお気軽にお声掛けくださいと書いていても、決して気軽に声をかけてくださらない、ただどお気軽に声をかけてくださいと書いてあることで安心していいことではない。そうではなく、これは声をかけてわざわざ聞くまでもないと思って諦めるというか、自分で探して納得して帰られている。本当はそれに声をかけるとプラスアルファのサービスが出来るわけで。多分カウンターだけで仕事しているとそここのところは気が付かないで済んでしまう。しかしそうした形で少しでもカウンターの作業を軽減できれば、そこを利用者の方に踏み出していく形のサービスに変えていけると思うし、たぶん様々な変化とはそういうことだろうと思う。そのことによってよりサービスの質が高まって初めてそういった機械を導入することの意味が活きてくる。そうした形で進めてほしい。

ほかに大体グランドデザインはよろしいでしょうか？

少し今日は議論しながらちょっと入口が見えてきた気がしてきた。どういうふうに進めていけばいいのかということ、ただ出口の部分はこれを使ってどうするのか、まだまだもう少し議論が必要かなと考える。

ではまずはこのグランドデザインについての審議はここまで、あとの計画については今日の議論を終えてすこし説明していただけないか。

●事務局

本日いただきましたご意見で、フォーマットにつきましてはこの形の中で、たとえば実施時期を明記したり、あるいは28のプランの中でもたとえば優先順位や達成度については少し切り分けたりしたい。項目がすごく包括的なものから、個別なものまでいろいろにわたっているというご指摘があることについては、これは作っている段階からもそういう状況ではあった。一つ一つの取り組みをある程度具体的な形にして進行状況をしめしていく。今年度は振り返りなので、昨年度どう取り組まれていたということも、もう少しわかりやすい形で一度工夫して、今年度の図書館活動の中に掲載したい。昨年度、図書館活動というのは包括的に赤ちゃんから大人まで図書館が今までやってきたことを含めて、すべての取り組みが掲載されているわけだが、この10年に限ってのグランドデザインのものについて、4つの目標それから28のプランについて、昨年度の取り組みをこういう形でやったという形で入れて、公表する。

次年度についてはこういう形で踏まえて進めていきたいということも明らかにして、それを図書館活動の中に合わせて作業をさせていただくということで進めていくこととする。

●委員長

次回ぐらいに具体のものを提示していただくと考えてよろしいか？

●事務局

実際のところ図書館活動を早めに出さないといけないという、こちらの事情もあるので、ただ、まあ今いただいたいろんなご意見で、少しお時間をいただいて、それを反映させた形で作成するので、出来上がったものを委員さんに送ってご意見いただくという形になるかと思われるが、それでいかがか？

●委員

あまり空けると議論したことを忘れてしまいそうなので、なるべく皆さんの頭にある間に、少し今日の議論を踏まえて具体的なものが、こういったものになる、別にそれで最終案ではなくて、なるべくそれがいただけたら、今度の議論のところに活かした形で使えると思う。今度出てきてパッと見せられて、ああこうなったのではなくて、ちょっと協議会以前にザッとしたものでいい、最終案じゃなくてもいいので、こういった形になりましたというのを、できれば一度お見せいただくと、皆さん、また協議会の方で少し前に進んだ議論が出来るのではないかと思います。急がすわけではないが、ぜひよろしくお願ひしたい。

では、グランドデザインの進行スケジュールについては以上ここまでということで、次第に沿って幾つかありますので、それについてお願ひする。

●事務局

今のグランドデザインを進めていくにあたり、今までの図書館評価の平成 24 年度の評価項目表を資料 6 として添付させていただいているが、これまでやってきたことをどうするかということで、少し今後の図書館の方向をお知らせしておく。

昨年 5 月に評価検討部会から豊中の市立図書館の運営状況に関する評価報告書をいただき、目標値の適正な設定値とか、新たな項目についてその時ご提示いただいたにもかかわらず、その後の「豊中市の図書館活動」が昨年 9 月に出来て、そのあと、この年度の評価である平成 24 年度の「評価項目表」に取り掛かっていた。

タイミング的にはその時点でグランドデザインの素案も作成し、パブリックコメントも行っていたので、グランドデザインの方向性も意識しながらの目標値の設定にはなっていた。ただ、一方で平成 25 年度は先程少し話にでたがシステムの更新も重なり、新たに全館にブックディレクションシステムという図書館の出入りにゲートを導入して IC タグを全部の資料に貼るという作業と、同時に図書点検も行ったということで、多くの準備期間と人手が必要となり、この 24 年度の評価表作成については何度も人が集まって検討するという作業が困難になり、完成せずに 26 年を迎えてしまった。25 年度には図書館の在り方についてご審議いただきご審問いただいた間にも評価表をどこかで出せればよかったのだが、提出に至らずこういう形で、案をお知らせすることになった。

平成 19 年度に、協議会の方から図書館における評価のあり方という提言をいただいてから、豊中市立図書館の評価システムの運用を開始した。図書館サービスを具体的に図るためのこの評価システムだったが、その後新しく行政の方でも、事務事業評価それから教育振興計画に基づく評価それから子ども読書活動推進計画事業報告などで、行政評価を次々と導入することになった。図書館は同時進行で独自の評価項目や数値の集計報告を行い、図書館活動を自らも確認しながらいろいろアピールをする試みをやってきた経緯がある。こういった状況の中でこの評価システムに基づいて活動を振り返り、業務改善を行い、取り組みの中で足りない部分を見出すことができた。

ただ、今回新たにこのグランドデザインにおける進行管理ということが必要になり、現行の評価システムによる図書館サービスの全般の振り返りと、グランドデザインの、今皆様にご討議いただいた進行管理と両方やっていくというのは、今以上に難しい厳しい状況になる。その事については先日お送りした資料の中で少しお話ししていたかと思う。そこで、この評価については毎年行ってきたものを見直し、またここで豊中の図書館活動の統計編にこの今までやってきたシステムの左側になると思うが、数値を簡略化した形で組み込み、評価システムによる自己点検・自己評価の方は、外部評価の際に実施するという方向で考えていきたいのでよろしくお願ひいたします。

●委員長

これまでやってこられた、図書館評価システムについてご説明いただいた。

これについて、何かご質問はございますか？

基本的にはこれを簡略化するなど何らかの形で継続して、この統計資料編の中に活かすという事でよいか。当然これは多分評価の経年変化をそこに組み込んでいくという事で、基本的に必要な項目については、その中でこれまでの評価を継続した形で展開できるという理解でよろしいか？

●委員

評価の部会の方でも、とにかく評価疲れの無いようにというところが、第一のテーマであったので、評価の数値を取るだけでも大変だと思うが、それをさらにまとめて、さらに最後まで文章化するまでを含めて、非常にご苦労が現場の方でありだと思う。そこに力をかけすぎて、本当に大事なのはそこから、じゃあどう行動に移すかというところだと思うので、出来るだけその評価の部分というのも、これまで2サイクルやってきているので、おおよその傾向はおそらく図書館の中でもつかめているのではないかと思うので、その辺出来るだけ省力化をしていただき、少ない人力で最大の効果が発揮出来るようなことを考えていただければよいのではないか。

●委員長

評価というのはお役所仕事の典型みたいになる時がある。評価してそこで終わってしまうということで、まあ評価疲れの無いように継続をしていただく、その他の部分に関してほかにございますか？

●事務局

それでは報告事項としまして5点ほどさせていただきます。

1点目は先ほど出ておられた、読書振興課が本庁舎から岡町に戻ったという事。

2点目も先ほど少し出ていたが、3月に図書館システムのリプレースを行った。こちらについてはICタグによる貸出・返却のスピードアップやゲートシステムの導入による資料の亡失防止を図っている。またスマートフォンにおけるサイトの新設やマイブックリスト、利用者が自ら好きな本のリストを容易に作れるようなことが可能になるなどサービスの充実を図っている。

そして3点目は職員の新規採用について、今年度司書が4名・管理職員が1名配属された。こちらの方は欠員となっていたところの補充で、全体としては定年退職等があったので、フルタイムの正職としましては4名減となっている。また、6月からは教育総務所属の障害者雇用職員が8名、千里・野畑・高川にそれぞれ配属された。

4点目は、管理の集中化として地域館4館にそれぞれの管理係を岡町に集中配置した。こちらの方は効果検証を行い、次年度以降人員の配置を考えていきたいと思う。

5点目は人事交流について、フルタイム正規職員としては、司書と本庁事務職の人事交流を原則3年の任期で開始した。今年度は1組だった。また学校図書館専任職員と短時間事務職員の人事交流についても、1年任期で開始した。こちらも今年度1組だった。

以上となっていますのでよろしく願いいたします。

●委員長

今のところでご質問ございますか？

●委員

3月にシステムを入れ替えられて、私一番はじめに去年の6月ぐらいかな？システムのウィンドウズ8を使っているのだが、協議会の報告が化けて読めませんというお話をさせてもらったと思うが、あのシステム後ちゃんと改善されていたので、その点だけ報告しておく。

●事務局

冒頭の資料の確認の時にもちょっと申し上げたが、今回の資料のご説明を少しだけ入れさせていただきたい。資料7は先ほど申し上げた。

資料8についてだが広報とよなかの5月号に掲載された「私たちの暮らしに生きる図書館」という特集ページを印字してご用意させていただいた。私たちが見てもここどこだろう？と思うほど素敵な写真が載っているが、これは千里図書館で撮影されたもの。千里コラボ内にある。この特集ページの掲載というのは外部評価等・図書館評価等で図書館の取り組みのPRの不足というのを長年ご指摘いただいております、分析PRチームというのを発足させた。その働きかけで今回の特集が実現した。この関連でケーブルテレビの方でも特集の放映をしたという展開になっている。

資料9についてだが、これは小型の冊子で「NPOと行政の協働豊中の実践」というのをお手元にお配りしている。13ページ以降にいろんな事例が載せられているが、図書館関係ということで2つ載っている。ブックスタート事業「えほんはじめまして」の取り組みと、「しょうないREK」の取り組みが中に掲載されているので、後程ご確認していただけたらありがたい。

資料10の方に移ってもよろしいか。資料10は「リアル応援生活マガジン」という冊子の7月号である。これは障害のある方を応援する事業所サポートセンターループというところが発行されている冊子だが、裏表紙の方を見ていただくと、使える豊中の図書館めぐりと題してコラムが掲載されている。この号からリレー方式で豊中の各館順番に取り上げていただいております今後掲載することになっている。先ほども申し上げたが、これらはより多くの人々に豊中の図書館サービスを知っていただく、そういうきっかけを捉えてするという事が必要であるという、数多くのご指摘をいただけてきた、その大きな課題に対して図書館の最近の取り組みという事でご報告させていただいた。

マチカネワニの展示に関して今回もご指摘いただき、ありがとうございました。

関連のことと言っては恐縮だが、豊中のマンホールにマチカネワニのデザインがあるが、実は下水道の方でそういうなど集めていて下水道のメンバーや図書館のメンバーも入った自主グループがある。そこで今残っているマチカネワニマンホールの分布図とか周辺の写真など、先々町が変わりゆく中でこういうものがこういうところにあって、みたいなことを載せていけたらと。これは北摂アーカイブの中に載せていくことで町の情報が少しでもみんなのものになればいいな、そういうことにも少しずつチャレンジしかけているところである。進行が遅く申し訳ございませんがご報告をさせていただいた。

●委員

そういうふうにIT関連で今、図書館が結構PRをして、ああここでもやっていると前よりずっと増えてきましたので、これからは是非頑張ってください。

●委員長

他にご意見等ございますか？その他報告事項はございますか？

なければ、ありがとうございました。

ではこれで、平成26年度の第1回豊中市立図書館協議会を閉会させていただきます。次回この審議につきましてもどうぞよろしくお願いいたします。どうも今日はありがとうございました。